

機関番号：14101
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20330102
 研究課題名（和文）日系ブラジル・ペルー人のソシオセントリック・ネットワークの機能の社会学的調査
 研究課題名（英文）Sociological Study on the Function of Socio-centric Network of the Japanese Brazilian and the Japanese Peruvian
 研究代表者
 児玉 克哉（KODAMA KATSUYA）
 三重大学・人文学部・教授
 研究者番号：50225455

研究成果の概要（和文）：

国や地域・都市の歴史的背景、在住外国人の違い、都市の規模、多様性と単一性の程度、社会階層の状況、教育水準、言語や文化の親密度、市民社会の成熟度、国や自治体の政策の方向性などの要素を吟味しながら、日系ブラジル人と日系ペルー人のソシオネットワークを分析した。日本での調査とともにブラジル・ペルーでの調査も行い、彼らが持っているソシオネットワークを調査した。フォーマルなものもインフォーマルなものも含め他ソシオネットワークの機能を分析し、それらを多文化共存のために有効に活用していくためのモデルについても、考察を加えた。

研究成果の概要（英文）：

Taking the historical background of the nations, regions and cities, the difference of the character of foreigner, the scale of the cities, the degree of plurality, the situation of social class, education level, closeness of languages and cultures, maturity of civil society, and the direction of policies of the states and local governments into consideration, we have examined the networks of the Japanese Brazilian and the Japanese Peruvian. We have carried out the research in Japan as well as in Brazil and Peru. The function of Socio-networks, both formal and informal, is examined. We have given observation of models for utilizing them for the coexistence of multi-cultures.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2009年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2010年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
年度			
総計	10,800,000	3,240,000	14,040,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：外国人労働者、多文化社会、日系人社会、ネットワーク社会、日系ブラジル人、日系ペルー人、日本語教育

1. 研究開始当初の背景

日本における在住外国人、特にブラジルやペルーなど中南米からの外国人の急増は社会に大きな影響を及ぼしている。これまで外国人労働者問題を調査するときには、彼らの労働条件や生活環境などに重点がおかれてきた。生活者としての外国人という視点が欠けていたと言える。実際に彼らが生活するプロセスに置いて、日系人は様々な社会的ネットワークを形成する。日系人社会内のネットワークも、また日系人社会以外とのネットワークも重要なものである。彼らがどのようなネットワークを持ち、日本の社会に適応しようとしているのかについては、あまり研究が進んでいるとはいえなかった。

彼らは、フォーマルな形でもインフォーマルな形でもグループを形成し、様々なつながりを持って生活をしている。彼ら内部のネットワークだけでなく、外部のエスニックグループとも様々なネットワークを形成している。

こうした様々なネットワークをソシオセントリック・ネットワークの視点から総合的に捉えながらプロセスの解明にあたった。

2. 研究の目的

外国人のソシオセントリック・ネットワークを明らかにし、分析することは、問題の本質に迫る上で極めて重要である。法律や社会の制度、社会的な環境の創造において、様々な市民団体は政治的、社会的なネットワークやマスメディアなどを通じて影響を与えている。様々なタイプの市民団体が存在し、各々の主張や方向性、性格などは大きく異なる。マイノリティが主体となった市民団体もあれば、交流をテーマにした団体、人権擁護

を目的とした団体も存在する。様々なタイプの市民団体がどのような影響力を持ち、どのような方向性で多文化社会の創造に加わっているのかを明らかにすることは現代的課題である。

日系ブラジル人・ペルー人は単なる労働力ではなく、日本の社会と様々な形で交流し、影響を与えあう生活者である。また彼らが生まれ育った母国の人とのネットワークも非常に重要なポイントである。ブラジルやペルーでは日系人社会が現存しており、それは「県人会」という形で組織化されている。ブラジルやペルーに残った人と日本に「行った」人との微妙な関係も調査の対象である。本調査は、外国人調査やエスニシティ研究蓄積を踏まえた上で、ネットワーク理論を活用して、日本とブラジルやペルーにおける包括的な調査と分析を目指すものである。

3. 研究の方法

中南米からの日系人のネットワークの現状とその機能を明らかにするために、面接を中心に調査を進めた。日本での調査とともに彼らの母国であるブラジルとペルーの状況を調べるために現地での調査も行った。

面接調査の対象は、1) 日本における日系ブラジル人と日系ペルー人を中心に構成されている市民団体の主要メンバー、2) 日本における日系ブラジル人と日系ペルー人の支援を目的に作られている市民団体の主要メンバー、3) 日本在住の日系ブラジル人と日系ペルー人、4) 外国人在住者に対応する自治体関係者、5) 中南米での日系人団体の主要メンバーであった。また、日系ブラジル人や日系ペルー人たちの交流の場としてのブラジル・ペルー料理店(食品店)も調査対

象であった。

面接は主として、フォーマルなネットワークだけでなく、インフォーマルなネットワークを探り出すように行った。特に日本においては、日系ブラジル人・ペルー人はフォーマルな組織化をそれほどしていない。インターネット、メール、携帯電話などによる極めてインフォーマルな関係が重要であり、それらを明らかにするように心がけた。面接調査をした後は、得られたデータをもとに、彼らのネットワークを分析・考察を加えた。

4. 研究成果

国や地域・都市の歴史的背景、在住外国人の違い、都市の規模、多様性と単一性の程度、社会階層の状況、教育水準、言語や文化の親密度、市民社会の成熟度、国や自治体の政策の方向性などの要素を吟味しながら、日系ブラジル人と日系ペルー人のネットワークを分析した。それぞれの国や文化、歴史的背景による違いが認められた。得られた情報・資料をネットワーク理論との関係において分析を行った。フォーマルなものもインフォーマルなものも含め他ソシオネットワークの機能を分析した。

特にブラジルにおいて極めて密な日系人ネットワークが見受けられ、それが日本への「デカセギ」においても大きなポイントになっていた。これらは、出身地域や出身階層によっても微妙に変化をしていくもので、ネットワーク理論からしても興味深い結果であった。特に日本においては、日系ブラジル人・ペルー人はフォーマルな組織化をあまりなく、団体があっても非常に小さなものが多かった。インターネット、メール、携帯電話などによる極めてインフォーマルな関係が重要であり、こうした構築されたネットワークは、就職上の情報共有などで大いに活かさ

れていた。また生活する上で必要な知識もこうしたネットワークから得られるものが多く、日系人にとってこうしたネットワークの存在が大きな意味を持っていることが分かった。

日本では、日系ブラジル人と日系ペルー人を同じような存在として扱う傾向があるが、日系ブラジル人のネットワークと日系ペルー人のネットワークを一絡げに扱うのは間違いであり、各々が独自性を持っている。日本在住の日系ブラジル人と日系ペルー人はキャラクターにも相違が見受けられた。といっても、完全に離れているものではなく、言葉も近いことから、時に協力関係を築いたりする。また中国人などの他の外国人のネットワークとも関係が築かれている。日本在住の外国人としての共通意識や日本語学習で同じクラスになることからの人間関係の構築などが影響していることも分かった。

また、日系ブラジル人や日系ペルー人を支援する日本人団体もいくつも出来ており、日本語教育や生活支援、文化交流などを行っている。日本人と日系ブラジル人・ペルー人のネットワークの形成は、今後、日本社会で日本人と日系ブラジル人・ペルー人とが共生していくために重要な働きをもたらす。伊賀市の伊賀日本語の会や鈴鹿市の UBJ (Union of Brazilian and Japanese) などは、日本人と日系ブラジル人・ペルー人とのネットワークの形成においてユニークな活動を続けている。こうした日系人と日本人団体とのネットワークの熟成も調査によって調べることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- 1) 藤本久司 「文化の種類とコミュニケーションギャップ」 『人文論叢』 第28号 2011年、P145-p155 査読無し
- 2) 児玉克哉 「日系ペルー人の過去と現在～調査の途中報告として～」 『日系ブラジル人・ペルー人研究の視点』 藤本久司、オチャンテ・カルロス、児玉克哉著、三重大学人文学部多文化共存研究センター、2010年3月、p49-p53 査読無し
- 3) 藤本久司 「世界同時不況下の東海地方、三重県の外国人住民」 『日系ブラジル人・ペルー人研究の視点』 藤本久司、オチャンテ・カルロス、児玉克哉著、三重大学人文学部多文化共存研究センター、2010年3月、p2-p16 査読無し
- 4) 児玉克哉 「日系ブラジル人・ペルー人の現状と課題」 『日系ブラジル人・ペルー人の現在』 児玉克哉、オチャンテ・カルロス、オチャンテ・ロサ著、三重大学人文学部多文化共存研究センター、2009年3月、p3-p7、査読なし

[学会発表] (計1件)

- 1) 児玉克哉 「外国人労働者問題の歴史的
分析と今後の展開」 自治労研究大会分
科会「自治体から発信する平和・人権・
共生のまちづくり」 2010年11月6日、
名古屋国際会議場

6. 研究組織

(1) 研究代表者

児玉 克哉 (KODAMA KATSUYA)
三重大学・人文学部・教授
研究者番号：50225455

(2) 研究分担者

石井 眞夫 (ISHII MASAO)
三重大学・人文学部・教授
研究者番号：20136576

藤本 久司 (FUJIMOTO HISASHI)
三重大学・人文学部・准教授
研究者番号：40345963

江成 幸 (ENARI MIYUKI)
三重大学・人文学部・准教授
研究者番号：20269682

石阪 督規 (ISHIZAKA TOKUNORI)
三重大学・人文学部・准教授
研究者番号：70324499

立川 陽仁 (TACHIKAWA AKIHITO)
三重大学・人文学部・准教授
研究者番号：20397508

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：